

工学部・工学研究科技術部ホームページ作成と技術習得

田村 茂*、高橋 末雄**、藤谷 善照***、皆川 清**
名古屋大学工学部・工学研究科技術部

はじめに

工学部に組織としての技術部が出来、技術部運営委員会・技術部実施運営委員会・技術長会議・系会議等が持たれるようになり、組織の実体化に向け環境が整いつつある中で、以前から技術部ホームページ（以下HPと記す）の必要性に関して話題にされたが、時期尚早と言われ実現する事がなかった。その一方で、各専攻技術室のHPが作られ、技術活動の一端（広報・業務の双方向性）を示し得、専攻内で機能してきた経緯がある。この事から、工学部共通業務を遂行する上でHPは専攻間の垣根を低く出来、研究者と技術者との双方向性を活かすことによって研究推進に一層貢献出来ることになる。

近年、各支援室に派遣されている技術職員の活動が認められつつあることから、技術部HPの必要性を認める声も聞かれるようになってきた。我々としては、これを機会に叩き台とするための技術部HP作成を研修に取り上げてみる事にした。

研修の参加者は、インターネットに関して全くの初心者ということもあり、技術的なテクニクは最小限に止め、工学部の技術部HPとして必要と思われる項目を載せ、かつ利用者にとって軽く開けるものになることを目指した。と同様に、高度な手法を用いてもブラウザ若しくはバージョンによって表示のされ方が異なるということが分かり、利用する側に不便を被ることを極力避けた。

1. HTML言語

HPを作成する上で最も基本的なものにHTML(Hyper Text Markup Language)という言葉があり、HPを作成するために使われる標準言語である。HTMLはタグと言う「<」と「>」の記号で囲まれた個所に単語を記入することによって、ページレイアウトを作成していきます。例えば、「工学部技術部」のタイトルを表示させる為には、<TITLE>工学部技術部</TITLE>というように<TITLE>と</TITLE>の間にテキスト文（工学部技術部）を入れます。

全体のレイアウトについては主に下のような<TABLE>タグ（表）を用いて表示させてある。

| | | | | |
|-----|-----|----------|------------|------|
| 工学部 | 技術部 | | | 関連組織 |
| | | 技術部運営委員会 | | |
| | | | 技術部実施運営委員会 | |

<TABLE BORDER=0>と表の線を消すことによって全体のレイアウトを整えた。

工学部 技術部

関連組織

技術部運営委員会

技術部実施運営委員会

*計測・制御技術系、**機器・システム技術系、***分析・物質技術系

2. 技術部 H P の項目

| | | | | |
|-----------|-------------|------------|------|---------|
| 技術部トップページ | | | | |
| 技術部長の挨拶 | | | | |
| 技術部組織 | 技術部運営委員会 | 技術部実施運営委員会 | 各系連絡 | 技術部職員一覧 |
| 各専攻技術室 | 業務依頼受付 | 技術部掲示板 | 技 報 | |
| 関連組織 | 他学部 H P リンク | ご意見はこちらへ | | |

技術部 H P の掲載項目として必要と思われる事項のみとし、ファイルの重くなる画像をなるべく入れないようにした。特に技報については p d f とはいえ、重くなることを考え 1 テーマ 1 ファイルでリンクすることにした。それぞれの項目を 4 名で担当したため、H T M L 語が異なっているが表示する事に関しては問題ないようになっている。

2.1 「名古屋大学大学院工学研究科・工学部 技術部」

フレームを採用したのは、ナビゲーションバーを常に表示しておけるというメリットがある。ということは一度表示したページを保存しておけるので、何度でも戻ることが可能となる。加えて、後でメニュー・構造を変更する際にも、フレーム内のメニュー・だけを書き換えればよいので、H T M L の書き換えが少なくてすむ。

欠点としては、小画面で見るとメイン画面が少なく表示されるため、横のスクロールバーが出て操作しづらい。解決策として、フレームの線を左にドラッグしてメイン画面を大きくするか、フレームを上を設置することも考えられる。又、ブラウザのバージョン・MacOSによって、フレームを表示できないときは、別のインデックスを設けメニュー・を開けるよう工夫した。

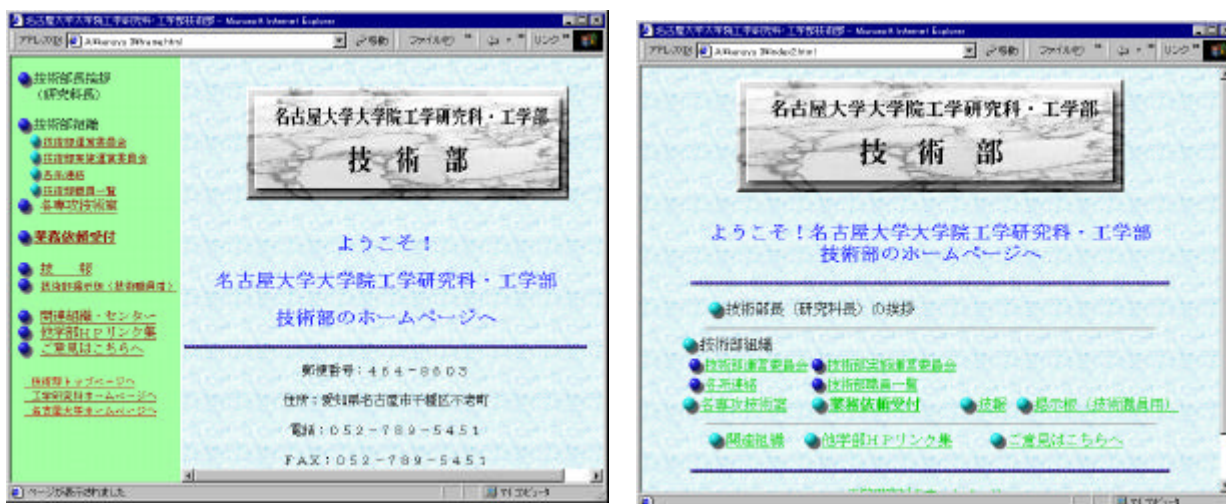


図 1 技術部トップページ

2.2 「技術部長（研究科長）の挨拶」

H P を実際に運用する際、お言葉をいただければと思います。

2.3 「技術部組織」

技術部運営委員会、技術部実施運営委員会、技術部職員一覧は表にまとめ、各系連絡については技術長・専任専門技術職員・班長・各系とまとめ、職員同士・組織単位・事務連絡等の利

便性を図った。

| 専攻名等 | 職名 | 氏名 | 内線 | 備考 |
|--------|-----------|------|------|---|
| 技術部 | 技術部長(学部長) | 塩澤健夫 | 3400 | 委員長 |
| 電気 | 教授 | 大熊 繁 | 2770 | (内線第2系第2号委員) 電気・情報技術系 任期：12.4.1～13.3.31 |
| 航空 | 教授 | 雷沢丈夫 | 4493 | (内線第2系第2号委員) 計測・制御技術系 任期：11.4.1～13.3.31 |
| 機械 | 教授 | 田中隆介 | 4672 | (内線第2系第2号委員) 機械・システム技術系 任期：12.4.1～13.3.31 |
| 建築 | 教授 | 清水裕之 | 3745 | (内線第2系第2号委員) 構造・安全技術系 任期：12.4.1～13.3.31 |
| 材料プロセス | 教授 | 石川肇司 | 3256 | (内線第2系第2号委員) プロセス・材料技術系 任期：11.4.1～13.3.31 |
| 物質制御 | 教授 | 正高安術 | 4014 | (内線第2系第2号委員) 分析・物質制御系 任期：11.4.1～13.3.31 |

図 2 - 1 技術部運営委員会

| 専攻名等 | 職名 | 氏名 | 内線 | 備考 |
|------|----------|------|------|---|
| 技術部 | 技術部長 | 井沢文夫 | 4495 | 委員長 (E-mail) |
| 技術部 | 技術系 | 小林清司 | 2690 | 申し合せ第2系1項1号委員 koyasaka@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技術部 | 技術系 | 長岡敏彦 | 2748 | 申し合せ第2系1項1号委員 naganaki@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技術部 | 技術系 | 森田千明 | 3631 | 申し合せ第2系1項1号委員 morita@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技術部 | 技術系 | 井沢文夫 | 4495 | 申し合せ第2系1項1号委員 nagoya-u.ac.jp |
| 技術部 | 技術系 | 林 達夫 | 3757 | 申し合せ第2系1項1号委員 takahashi@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技術部 | 技術系 | 星野豊樹 | 4463 | 申し合せ第2系1項1号委員 hoshino@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技術部 | 主任専門技術職員 | 櫻井孝夫 | 3624 | 申し合せ第2系1項2号委員 sakurai@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技術部 | 主任専門技術職員 | 清水伸文 | 3670 | 申し合せ第2系1項2号委員 shimizu@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技術部 | 主任専門技術職員 | 松浦崇雄 | 3718 | 申し合せ第2系1項2号委員 |

図 2 - 2 技術部実施運営委員会

技術部各系連絡

技術職員 All_staff

技術員_staff 主任専門技術職員_staff 技 員_staff

電子・情報技術系_staff 計測・制御技術系_staff

機械・システム技術系_staff 構造・安全技術系_staff

プロセス・材料技術系_staff 分析・物質技術系_staff

戻ります

工学研究科のホームページへ

図 2 - 3 各系連絡

技術部職員一覧

技術職員_all_staff

電子・情報技術系 電子・情報技術系_staff

| 職名 | 専攻 | 氏名 | 電話 | E-mailアドレス |
|----------|--------|-------|------|------------------------------|
| 技 術 系 | 電気系 | 小林 清司 | 2690 | koyasaka@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 主任専門技術職員 | 電子工学 | 櫻井 孝夫 | 3624 | sakurai@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技 術 系 | 材料プロセス | 松本 孝一 | 3273 | matsumoto@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技 術 系 | 原子核 | 神田 勲之 | 3558 | kaneda@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 専門技術職員 | 航空 | 田中 隆介 | 4670 | tanaka@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 専門技術職員 | 情報システム | 高木 千明 | 3810 | takahashi@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技 術 主任 | 電気系 | 大熊 繁 | 2740 | ookuma@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技 術 主任 | 電気系 | 長岡 敏彦 | 2748 | naganaki@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技 術 主任 | 電気系 | 森田 千明 | 3631 | morita@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技 術 主任 | 情報システム | 伊藤 重雄 | 3803 | ito@ipc.nagoya-u.ac.jp |
| 技 術 官 | 理工総務 | 三村 友幸 | 3631 | murayama@ipc.nagoya-u.ac.jp |

計測・制御技術系 計測・制御技術系_staff

| 職名 | 専攻 | 氏名 | 電話 | E-mailアドレス |
|-------|----|-------|------|-----------------------------|
| 技 術 系 | 情報 | 長岡 敏彦 | 2748 | naganaki@ipc.nagoya-u.ac.jp |

図 2 - 4 技術部職員一覧

2.4 「各専攻技術室」

各専攻技術室を掲載したが、ホームページの在るところと無いところがあり、今後HPの無い技術室を立ち上げてゆく事によって相互の連携を取ることが可能となる。

名古屋大学 大学院工学研究科・工学部・技術部

各専攻技術室

| | |
|---------------|-------------|
| 電気系技術室 | 建築学専攻技術室 |
| 材料系技術センター | 電子機械工学専攻技術室 |
| 機械系技術室 | 応用物理学教室 |
| 原子核工学教室技術室 | 情報工学専攻共通 |
| 応用化学専攻・物質化学専攻 | 分子科学工学技術室 |
| 土木工学専攻 | 航空宇宙工学専攻 |

図 3 各専攻技術室

2.5 「業務依頼」

専攻技術室HPでも見られるように「業務依頼」という項目を研修例として設け、業務依頼内容についても業務例を表示し、依頼先を各専攻と各技術長宛のものを作成してみた。

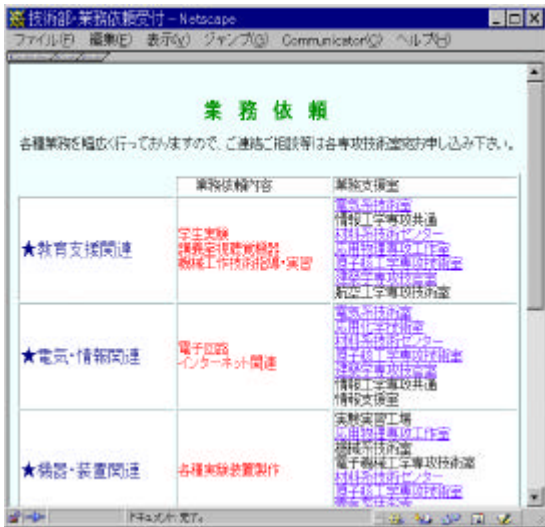


図 4 - 1 業務依頼



図 4 - 2 業務依頼

2.6 「技 報」

これまでの研修（学内・学外）、技術研究会において発表され、まとめられた技報を載せた。

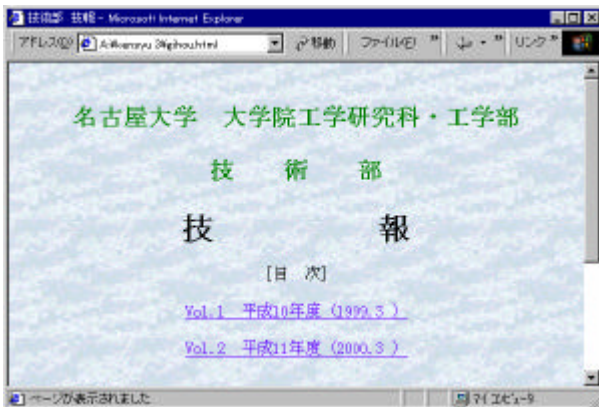


図 5 - 1 技 報

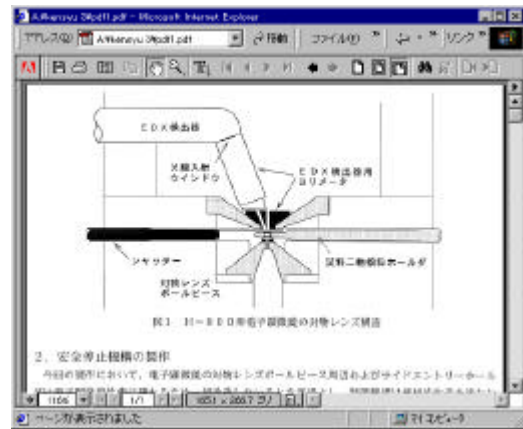


図 5 - 2 技 報

2.7 「技術部掲示板（技術職員用）」

技術職員全員に知らせる事項を掲載する。



図 6 技術部掲示板

2.8 「関連組織」

工学部に関連した各組織を掲載した。



図7 関連組織

2.9 「他学部HPリンク集」

取り敢えず、学内の技術部でHPを開いているところのみを掲載した。

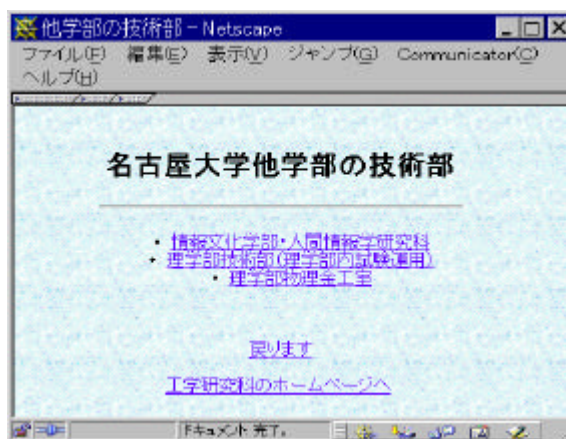


図8 他学部HPリンク集

2.10 「ご意見はこちらへ」

技術部に対するご意見等をいただいて、今後の技術部運用に役立てる。

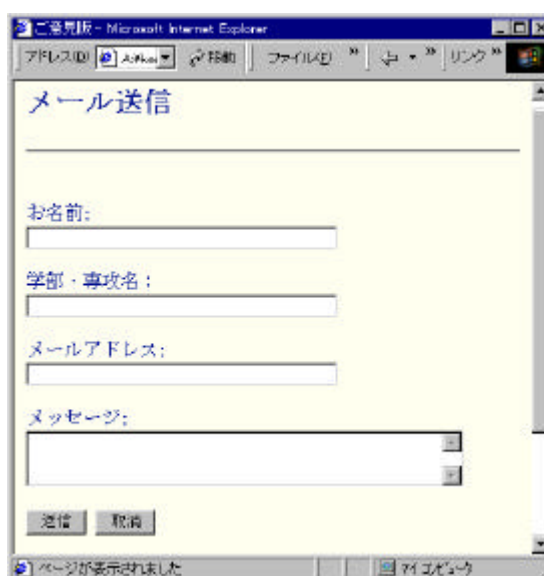


図9 ご意見はこちらへ

3. 問題点

工学部HPをInternet Explorer Ver.4上で仕上げたが、WindowsとMac.OS、Internet ExplorerとNetscape Navigator、さらにVer.によっても異なる表示をする事が判明し、又Jaba Script,Styl Sheet,CGIなど新しい手法を用いると未表示・動かないという事も生じた。今研修ではなるべくブラウザの低バージョンで閲覧する事を前提に、簡単かつ軽便としたが、今後低バージョンでも見て貰えることに照準を合わせるのか、情報技術の先端を走っている方たちに合わせるのかは一考を要するところである。

工学部の名称について気が付いた事として、名古屋大学のHPにおいては「工学部・工学研究科」と表示されているが、工学部のHPを開いてみると「大学院工学研究科・工学部」となっている。本研修では工学部のHPに合わせて「大学院工学研究科・工学部・技術部」とした。

情報公開という使命を持っているがために、HPの内容を改竄^{かいざん}される事の無いようセキュリティの面などに十分な対策を立てる事が必要である。

4. まとめ

技術的に高度であるがために開くのに時間がかかってタイムアウトになるHPをよく目にした。当研修HPは初歩的なものではあるが、簡易さを旨としたので早く開くようになっているので、これからHPを作成しようとするところは参考にされ、技術部HPと各専攻技術室HPとで双方向性を持つことが出来ればと考えている。細部についてのチェックをする時間がなかったことから、不安な点が残ったのは否めない。

HTML言語にもバージョンがあるということ、ここに至ってようやく知った次第であり、HPに関する技術的な部分について分業化されつつあるので、暫くは様子を見たほうが良さそうである。

謝 辞

右も左も知らないで始めたHP研修ではあったが、多くの方達からご助言いただき、おかげで我々としては上出来の結果を得ることが出来、周辺技術に関しても研修の過程で得られました事を各位に感謝します。

参考資料

- (1) はじめてのホームページ：谷 麻雄、(株)秀和システム
- (2) HTMLレイアウトスタイル辞典：板垣朝子、(株)秀和システム